

~~2869~~

Ref. # 1581

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 太田三郎

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ソ通リ宣誓ヲ爲シタル上次ノ如
ク供述致シマス。

Ref Doc #1581

私ハ一九三八年五月カラ在莫州科日本大使館デ大使館三等書記官トシテ
勤務シマシタガ一九三八年十月ニ東郷大使ガ着任サレマシタノデ爾來同大
使ノ下デ働キ同大使ガ一九四〇年十月離任歸朝セラレルト私モ同月ニ前
後シテ歸朝シマシタソノ間一九二九年五月「ノモンハン」事件發生シ之ガ
解決ノ爲ノ外交交渉ガ行ハレ、私ハ同年七月頃カラ東郷大使ノ下デ右交渉
ノ事務ヲ處理シマシタ。

同事件ハ滿洲國ト外蒙古ノ間ノ境界線ガモトモト清國內ニ於タル行政區
劃ノ境界線デアツテ滿蒙双方ニヨツテ明確ニ協定シタモノデナイ爲ニ起ツ
タ事件デアリマス。

即チ一九三九年五月外蒙兵ガ滿洲國側ニ於テ滿蒙間ノ國境ト信ジテ居タ「
ハルハ河」ヲ越ヘテ滿洲國領内ニ進出シタコトニ起因シマス。日本軍ハ滿
洲國軍ト共ニ滿蒙國境線ヲ確保スル爲受動的ニ反撃スルノ止ムツキニ至リ
外蒙軍ヲ「ハルハ河」以南ニ壓迫シマシタガ蘇蒙軍ハ兵力ヲ増加シテ右地
域ノ回復ヲ計ラントシ其間日「ソ」兩政府間ニ互ニ抗議モ行ハレマシタ。

而シテ日滿側ハ「ハルハ河」國境線ノ確保ヲ目途トシテ居マシタガ燕蒙軍
 ハ日ヲ迫ラウテ増強サレ其ノ軍事行動ハ本格的トナツタ爲事件ヲ速カニ解決
 シテ日滿關係ノ正常化ヲ計ラントスル日本側ノ希望ニ拘ラス交渉開始ノ好
 機ハ容易ニ捉ヘルコトガ出來オカッタノデアリマス。トコロガ八月二十二
 日北樺太利権問題ニ關シ東郷大使ガ「ロソフスキ」外務人民委員代理ト
 會見ノ際懸案解決ノ必要ヲ唱道セルニ對シ「ロー」代理ガ日ソ國交ノ正常化
 ハ「ソ」側モ希望スル旨言明シタ機會ヲ捉ヘ、東郷大使ヨリ國交ノ正常化
 ヲ計ラシムガタメニハ滿「ソ」及滿蒙間ノ國境ノ諸問題ヲモ解決スル要アル
 旨ヲ力説シ「ロー」代理ハ國境問題ニツキ日本側ヨリ具體的ニ申出ガアレハ
 「ロー」側ハ研究スヘシト答ヘ「ソ」側ニ於テモ外交交渉ニヨリ本事件ノ解
 決ヲ希望スルコトガ明白トナリマシタ

仍テ東郷大使ハ東京ト電報ヲ往復シタガ日本政府ハ滿洲國政府ト協議ノ上
 具體的訓令ヲ送付來ツタノデ、九月九日「モロトフ」委員ト會見ノ上、日
 本政府ハ日「ソ」國交ヲ全面的ニ調整メンガタメニ相互善意ヲモノテ諸懸
 案ヲ解決シ度キ意向ナルヲ前置シ(イ)滿「ソ」及ビ滿蒙兩國境ノ確定ヲ提議

スル(ロ)國境紛争處理委員會ヲ設置スルニ異議ナキコト及ビ(イ)通商條約交渉ニ應スル用意アル旨ヲ申入レ、先方ヨリ(ロ)ノ紛争處理委員會ノ取扱フヘキ紛争ニツキ質問シタルニ對シ東郷大使ハ「ノモンハン」事件ガ更ニ紛糾スル場合、國交ノ調整ハ至難トナルヲ以テ急速ニ話合ヲツケル要アリト述べ又日本側ノ「ノモンハン」事件ノ處理方針如何ントノ問ニ對シテハ、今後ニ於ケル紛争ノ發生ヲ防止シ且ツ國交ノ改善ニ好影響ヲ齎ラスヤウニ本事件ヲ解決スルタメ紛争地域ヲ非武裝化セントスル日本側案ヲ詳細説明シマシタ。

九月十日ノ第二回會見ニ於テ「モロトフ」委員ハ(イ)「ソ」滿及ビ「ソ」蒙兩國境ノ確定並ビニ紛争處理委員會ノ設置ハ適切デアル但シ紛争處理委員會ハ將來發生スルコトアルヘキ陸上紛争並ビニ「カ」チヤツカ「及ビ」「サ」ハリン「ニ」於ケル領海侵犯事件ヲモ處理スルモノナルコト(ロ)通商條約ノ締結ヲ希望スル旨述べルト共ニ(ハ)「ノモンハン」事件ニツイテハ「ソ」側ハ事件發生前ノ状態ヲ返サントスルモノデ、又「ソ」側ノ主張スル國境線ハ多年ニ亘リ確定シテアルノダカラ、ソノ内部ニ非武裝地帯ヲ設置スルハ不

187 182 #1581

合理デアアル、從ツテ右ノ國境線ヲ基準トシ、双方軍隊ヲ撤退セシメ事件ノ

解決ヲ計リ度イト回答シマシタ。

右ニ對シ東郷大使ハ紛争處理ヲ「カハチヤツカレ」及「サハリン」ニ及ボス
ベキ「ソレ」側提案ハ本國政府ト打合セタル上回答スヘキガ「ノモンハン」
事件ニツイテハ「ノモンハン」地區ニハ從來外蒙兵ノ駐屯セルコトナク本
年三、四月ノ頃カラ少シツツ侵入シ來リ五月ニ入ツテカラ紛争トナリ漸次
擴大セルモノデアアルカラ「ソレ」側ノ原狀回復案ニヨレバ「ソレ」蒙側ハ「ハ
ルハ」河左岸ニ撤退スルコトトナリ、日本側案ト大体一致スル、日滿軍ハ
紛争發生前ニモ「ノモンハン」地區ニ駐屯シテキタ様デアアルカ、日本側案
ハゴノ點ニ拘泥スルコトナク、双方武装力ノ立入ラナイ地域ヲ定ムルコト
ヲ適當トスル旨ヲ述べ先方ハ國境ハ「劃定」スルノデナイ「再劃定」デア
ルコトヲ明ラカニスルヲ要スト述べタル後滿蒙國境ハ紛争發生前ノ國境ニ
ヨルコトトスヘク日本側ガ「コレ」ニ同意スレバ「ソレ」聯軍ハ右ノ線^{マデ}撤退
スルト言ヒマシタ。仍ツテ東郷大使ヨリ「ノモンハン」地區ハ滿洲國ノ自
國ノ領域ト信シ居ルモノデアアルカラ「ソレ」側是諍ハ受諾出來ナイガ此ノ際

速ニ事件ヲ解決シテ現地ノ不穩ナル空氣ヲ平靜化スル要アリト主張シマシ
タ。

九月十四日第三回會見ニ於テ東郷大使ヨリ妥協案トシテノモンハン地區ニ
オケル事態ガ大体一九三九年五月一日前ニ回復セラルヘキコト及ビコレガ
目的ヲモツテ双方軍隊ガ停戦スル案ヲ提示シ、同案ハ國境線ノ問題ニ觸レ
ナイ點以外ハ「ソ」側提案ト同趣旨デアルコトヲ説明シタガモロトフ委員
ハ外蒙側ノ主張スル國境線ガ五月一日前ニオイテモ存在シタルコトヲ日本
側ガ承認スル要アリト主張シテ長時間論議シタルモ譲ラズヨツテ東郷氏ハ
原狀回復案ニ蘇側ガ同意シナイ以上唯一ノ解決案ハ双方トモ一定時ノ現在
線ニ止マリ戦闘ヲ中止スルニアリトナシ、コレニ對スル「ソ」側ノ贊否ヲ
求メ、先方ハ考慮ノ上回答方約シマシタ。

Ref Hoc # 1581

九月十五日第四回會見ニ於テ「モ」ロトフ「ソ」委員ヨリ「ソ」政府ハ昨日ノ日
本側停戦案ノ受諾ガ可能デアルトテ、停戦取極ニ同意スルト共ニ「ソ」ノモン
ハン「ソ」地區ニオケル滿蒙國境ヲ確定スル「ソ」日滿側及ビ「ソ」蒙側代表夫
々二名ヨリナル混合委員會ノ設置案ヲ提出シマシタノテ直チニ兩氏ノ間ニ

Ref. No. #1581

停戦ノ時間其他ノ關係事項並ニ右國境確定ノ爲ノ混合委員會ニ付協議ノ結果十六日午前二時頃停戦ニ關スル合意ガ成立シマシタ。尙停戦合意ノ形式ハ書キ物トセス口約トスルコトニナリマシタガ其内容ハ十六日午前三時共同コムミユニクテコレヲ發表スルコトナリマシタ。辯護側文書第一五七〇號ガソレデアリマス。

「ノモンハン」停戦協定ニ基ク滿蒙國境確定混合委員會ノ設置ニツイテハ其後引續キ東郷大使モロトフ委員間ニ交渉ノ結果一九三九年十一月十九日合意ガ成立シ之ニ基キ日滿「ソ」蒙各代表間ニ同年十二月七日ヨリ同二十七日迄「チタ」ニ於テ八回一九四〇年一月五日ヨリ同三十日迄「ハルビン」ニオイテ八回計十六回ニ亘リ會議ガ開催サレ「ノモンハン」地區及「アルシヤン」河南方地區ノ滿蒙國境確定ノタメ、公ノ權威アル地圖及ビ文獻ヲ基礎トシテ審議ヲ重ネマシタガ双方ノ意見對立シタノデ第十六回會議ヲ以テ委員會ハ終止ノ已ムナキニ至リマシタ右會議ニ於ケル討議ノ模様ニ鑑ミ本件交渉ノ困難ヲ思ハシムルモノガアリマシタガ東郷大使ハ同年三月

Ref No #1581

頃カラ更ニ本問題ヲ取上ゲ「モロトフ」委員等ト頓終ニ交渉シ遂ニ六月九日「モロトフ」委員トノ間ニ紛争地域國境確定ニ關スル協定ヲ成立セシメ國境ノ圖上確定ヲ行ヒマシタ。

一九四〇年六月九日東郷大使「モロトフ」外務人民委員間ニ署名セラレタ「ノモンハン」地區滿蒙國境協定及ビソノ附屬地圖ガ法廷證第七六七號トシテ檢察側ヨリ提出サレテ居リマスガゴノ附屬地圖ノ下方ニハ「一

九四〇年六月九日協定迄ノ「ハルビン」地方ニ於ケル蒙古人民共和國及ビ滿洲國間國境線「一九四〇年六月九日協定ニ依ル「ハルビン

「ブール」地方ニ於ケル蒙古人民共和國及ビ滿洲國間國境線「ト記入シテアリマスルガカカル記入ハ當時署名サレタ協定ノ附屬地圖ニハ存在シマ

センデシタ東郷「モロトフ」協定以前ニハ本件紛争地域ニハ國際的合意ニ依リ認メラレテホタ國境線ハ無カツタノデアリマス。又右記入ノ次ニ「百萬分之一縮圖」トアリマスガ東郷「モロトフ」交渉ニ於テハ當初關

東軍作製「拾萬分之一地圖」使用シマシタガ協定ノ署名ニ當ツテハ便宜

上 蘇聯參謀本部作製一九三五年版ノ廿萬分之一地圖ヲ使用スルコトニナツ
 タコトヲ記憶シマス現ニ東郷「モロトフ」協定ニモ此旨記載シテアリマス
 更ニ一九四〇年六月九日ノ協定ニヨリ蒙古人民共和國ガ滿洲國ヘノ歸屬ヲ
 認メタ際爭地區ハ「ハタト」山ノ三角地帯ト「アルシヤン」河南方地域ノ
 狹少ノ地區デアッタト記憶シマス他方滿洲國ハ「ハルハ」河ヨリ新國境線
 ニ至ル地域ヲ蒙古人民共和國ニ歸屬セシムルコトニ同意シタノデアリマス
 次テ右圖ト確定ニヨル國境ヲ現地ニ於テ明確ニスルタメ七月十八日東郷大
 使「ロゾフスキー」外務人民委員代理間ニ現地國境確定委員會ノ構成及ビ
 職務ニ關スル取極ガ成立シ之ニ基キ滿蒙代表間ニ八月三日ヨリ同二十四日
 迄「チタル」ニ於イテ六回ニ亘リ會議ガ開催サレ技術的事項ニ關シ合意ヲ遂
 ゲタ上九月上旬以降現地作業ニ移リマシタ先是八月二十九日東郷大使ハ歸
 朝ヲ命セラレ十月二十日莫斯科出發離任歸國セラレ私モ十月十八日出發歸
 國シマシタ。

「ノモンハン」事件ノ解決ニ依リ日「ソ」國交關係ハ正常化ノ軌道ニ乘リ

マシタノテ東郷大使ハ平素カラノ意願タル日「ソレ」不可侵條約ノ締結ニ
向ツテ進ムヲ可トシ一九三九年ノ末カ又ハ一九四〇年ノ初頃カラ東京政
府ヘ強クテ進言シ又之ガ爲齋藤書記官ヲ一時歸京セシメテ各方面ノ要
人説得ニ努メシメタル結果有田外務大臣ヨリ日「ソレ」中立條約交渉締結
方ノ訓令ヲ得テ「モロトフ」外務委員ト交渉シタル際大ナル進捗ヲ見
約案ノ骨子ニ付合意ニ達シタガ松岡外務大臣ヨリノ歸朝命令ニ接シ歸國
サレマシタ。

私ハ歸朝後歐亞局第三課長ヲ勤メマシタガ「ソレ」モンハン」地方國境確定
ノ現地作業ハ滿蒙双方意見不一致ノ爲一九四〇年十二月以降殆ンド休止
状態ニアツタノヲ一九四一年四月日「ソレ」中立條約成立直後建川駐「ソ
レ」大使ト「モロトフ」委員間ニ現地作業ヲ同年中ニ完了スベキトニ話
合ガ成立シ其結果滿蒙兩全構ハ五月二十八日以降「チタレ」ニ於イテ會合
シ六月十四日技術的協定ノ署名ヲ完了シタノテ滿蒙兩全構ハ六月二十七
日以降現地作業ヲ開始シ獨「ソレ」戰勃發ニモ拘ラズ作業ハ繼續サレ八月

History #1581

Ref. No. #1581

十七日「ノモンハン」紛争地域ノ全國境線ニ亘リ國境標識及ビ標柱ノ樹立ヲ完了シ茲ニ停戰協定成立以來滿二ケ年目ニ此ノ重大案件ノ全部的解決ヲ見マシタ。

尙右現地國境確定委員會ニ於イテ作成シタ綜合議定書及ビ附屬文書ハ一九四一年十月十五日「ハルビン」ニ於イテ署名調印ヲ了シマシタ而シテ滿蒙兩國政府ニヨル之ガ確認ハ十二月五日公文ノ交換ヲモツテ行フコトニ申合セマシタガ蒙古側ノ右ニ關スル手續遲延ト「ソ」側ノ都合トニヨリ翌一九四二年五月十五日「ハルビン」ニ於イテ確認ノ通告ヲ完了シマシタ。

Ref. No. #1581

良心ニ從テ眞實ノ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルヲ誓フ

宣
誓
書

署名
捺印

太
田
三
郎

Ref No #1581

昭和二十二年（一九四七年）五月十日於東京

供述者 太田三郎

右ハ當立命人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルヲ証明シマス。

同日 於東京

立會人 西

春彦